

## だれにも当てはまる日常のできごとを

### 人間味のあるあるがままの目でユーモラスに綴る

#### CL diary #44

むーらん



7月18日（木）

今日は体調が悪くて2時間ほど仕事を早退させてもらった。もちろん頭も痛かったのだけれど、この前みたいに、ねこを洗濯機に閉じ込めてしまったのかと心配で。今朝、ふたを閉めるときには、ねこはいなかったと思うのだけれど、気にしはじめると、もう閉じ込められているあの子の顔しか浮かんで来なくなってしまう…。帰宅後、あの子の無事を確かめてから、ゆっくり休むことができた。

7月24日（水）

突然、事務室の隣の会議室から大きな声が。あれはひょっとして、課長の声ではない？となりの席のTさんも驚いた顔。すると課長が苦い顔をして会議室から出て行ってしまった。課長はいつも穏やかで、怒っている姿など見たことがない。だから私たちは「あの課長が怒鳴るなんて」と驚いたのだが…。だけど人は一瞬一瞬変わるもの。課長は優しい瞬間が多いだけ。

8月9日（金）

仕事場で電話をとったのだが、電話の保留ボタンを押してもすこしも保留状態にならない。となりのTさんが、気づいてくれて、「その電話、となりの…？」なんと私は、自分の左側の電話の受話器を持ち、右側の電話の保留ボタンを一所懸命押していたのだった。話すことに夢中になっていると、そんなことにも気づかない。

8月22日（木）

今日は私の課が事務局を担当している、ある審査会の委員さんたちが市内の視察に行ってください。雨が降りそうだったので、保管庫で長靴をさがす。何日前か「委員さんの長靴は買ってあるから」と聞いていたから、てっきり人数分おいてあるのかと思っていた。ところが、7人分必要なのに、5足しかない。あちこちの課に聞いて、ようやく人数分を確保。聞くだけでなく、自分の目で確かめておくことは大切だとあらためて思った。

9月8日（日）

郵便受けに宅配便の連絡票が入っていた。荷物を「宅配ボックス〇番に入れてあります」といういつものメモの後に「少し重いです」の一言が。ささやかな一言だけれど、配達員の人の気配りが嬉しかった。

9月16日（月）

急に電話が鳴って目が覚めた。時計を見ると、朝5時を少し過ぎた頃。あわてて出ると係長から「台風で警報が出て、職員は全員出勤ということになったから、すぐに来られるか」とのこと。これから！今日は祝日でゆっくりできると思っていたのに。いやだなあ、と思いながらテレビをつけると、県内で台風の被害が広がっているというニュースで、雨の中作業をしている人の映像が。作業着から同じ市の職員の人たちだとわかる。もうとっくに働いている人がいるのだ。私も急いで行かなければ。

9月20日（金）

仕事場で電話をとったが、担当者でないと対応できないと思い、前回担当した人の名前を聞くと「それは聞かなかったのですが、眼鏡をかけている方だったと思います」とのこと。それなら…と思い、向こう側に座っている人に「〇〇さん、眼鏡をかけている人だったということなので、お願いできますか」と呼んだ。するとその隣の人が「僕もかけてるでー」と。あれー、そうだったかなあ。でもそう言われれば二人とも眼鏡だった…。毎日見ているはずなのにね。

9月25日（水）

市が開発した住宅地を販売する事務所から、土日に販売の仕事をする応援がほしいとの募集の文書が回ってきた。見ると、「若くてやる気のある職員を募集！」とあり、ところが、それが線で消してある。すると課長から「自分が消すように言ったんや。しょうもないことが書いてあるからな」とのこと。「しょうもないこと」？私はすぐにはわからなかったのだけれど、後で気がついた。仕事に「やる気」なんて関係ない。たたなすべきことをするだけだ。

9月30日（月）

朝、門のところで出勤してくる職員ひとりひとりに「おはようございます」と挨拶している警備員さん。後ろから見ていると、挨拶が返ってくることもあるけれど返ってこないことも多い。それでも元気よくみんなに挨拶している。さて、私はどうかというと、仕事場で挨拶して、返事が返ってこないと「どうして何も言ってくれないの」と、どうしても返事を期待してしまう。そんな自分が嫌になる。でもそう思うのは自然なことで、明日も挨拶するかどうかも、私の自由なのだ。（滋賀県滋賀郡CLインストラクター）

 [目次へ戻る](#)